

いつか来るその日に備えて

～あなたの家のブロック塀は、大地震に耐えられますか～

平成30年の大阪北部地震(最大震度6弱)では、小学校のブロック塀が倒壊し、登校中だった9歳の女の子が亡くなりました。南海トラフ地震が発生した場合、本市は最大で震度7が予想されています。9月1日は「防災の日」。いま一度、身の回りの安全を確認し、今できる備えを進めていきましょう。

この写真のブロック塀は、市の補助制度を活用し現在は撤去されています

地震で倒壊する
可能性があります

危険なブロック塀の撤去を！

図▶建築課(☎71)2241)



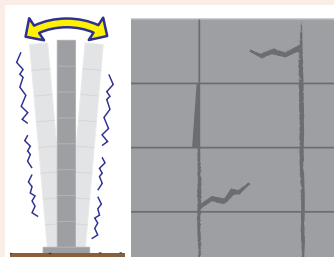
建築課 水谷

強度が十分でないブロック塀は地震で倒壊する危険性があり、倒壊して人がケガ・死亡した場合には、所有者が責任を問われることになります。市では、ブロック塀の撤去費を補助しています。補助制度を活用して危険なブロック塀の撤去を考えてみませんか？まずは下記の危険度チェックで、自宅のブロック塀の安全性を確認してみましょう。

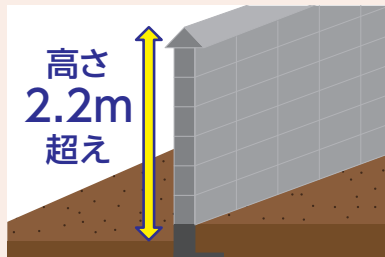
ブロック塀危険度チェック

1つでも該当していると、そのブロック塀は安全性に欠けると考えられます。専門家による診断を受けましょう。

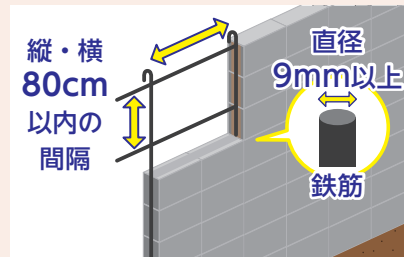
☐ 塀に傾き、ぐらつき、亀裂・目地割れがある



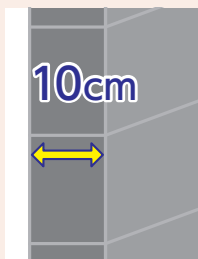
☐ 塀の高さが2.2mを超える



☐ 塀に鉄筋が入っていない



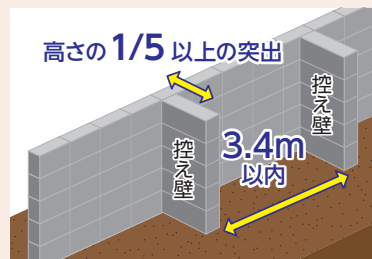
☐ 塀の厚さが10cm未満



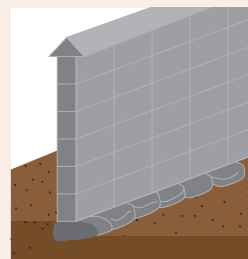
☐ 透かしブロックが連続して配置



☐ 控え壁がない(塀の高さが1.2mを超える場合)



☐ コンクリートの基礎がない



地震火災への
備えも大切です

感震ブレーカーの設置を！

図▶危機管理課(☎71)2220)

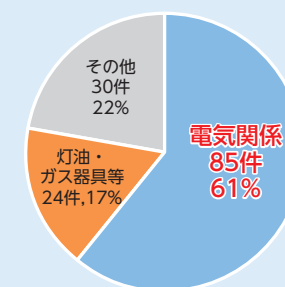
下記の円グラフをご覧ください。大規模な地震火災の出火原因の6割は、通電火災(地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災)であることがわかります。

通電火災の予防には感震ブレーカーの設置が有効です。感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。

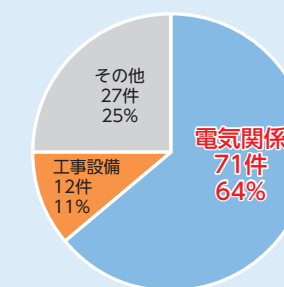
市では、住宅に分電盤タイプ(内蔵型・後付型)の感震ブレーカーを設置する場合に、上限1万円の補助金を交付しています。詳細は危機管理課へ問い合わせるか、右記QRコードから市HPを参照してください。



大規模地震
による
火災発生原因の
内訳



阪神・
淡路大震災
(平成7年)



東日本大震災
(平成23年)

内閣府「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会報告書」より